

介護療養型医療施設の再編に関する調査研究事業  
介護療養病床から介護老人保健施設への転換シミュレーション  
(概要版)

1. 目的

介護療養病床が円滑に介護老人保健施設に移行するため、「転換モデル」を設定し、経過措置期間を含めた転換後までの収支推計のシミュレーションを行い、転換にあたりキーポイントとなる事項の洗い出しを行うことで、実際に転換を考えている施設等のための資料とする。

なお、このシミュレーションは、種々の前提を置いた上での基本的収支計算の例示であり、個別医療施設の現実の収支計算を予測したものではない。

2. シミュレーションにおける留意事項（前提条件）

本シミュレーションでは、現行の介護療養型医療施設が、①職員基準等が緩和された経過型介護療養型医療施設を経由して6年目以降、介護老人保健施設へ転換する場合と、②すぐに介護老人保健施設へ転換する場合（いずれの場合も、1床当たりの居室面積は、平成23年度末までは6.4㎡、平成24年度以降は8.0㎡。以下同じ。）について、それぞれ19年目までの経営状況を推計した。転換前、経過期間、転換後の条件設定については、現在(2006年改定)の介護報酬体系及び実績値をもとに行い、各項目の前提条件は以下のとおりである。

(ア) 転換モデル

「介護事業経営実態調査(平成18年3月)」の結果から、転換前の介護療養病床数を「30床」「60床」「150床」の3パターンに分け、それぞれが①経過型介護療養型医療施設を経由して平成24年度に介護老人保健施設へ転換する場合と、②すぐに介護老人保健施設へ転換される場合について、それぞれシミュレーションを行った。また、転換元の施設の状況として、介護療養病床単独型と一般病床等との併設を前提とする併設型を設定した。

(イ) 要介護度

利用者の要介護度分布は、現在の介護療養病床の患者が、6年目には現在医療区分2である者の3割が残り、その他はすべて医療区分1の患者になるとし、それに伴い要介護度も変化すると仮定した。(平均要介護度：転換前4.35⇒6年目4.23⇒10年目4.23)

(ウ) 収益・費用等について

① 収益部門

現在(2006年改定)の介護報酬を用いる。なお、病床の利用率は、現在の規模別平均利用率を使用し、病床数は、個室・多床室(4床室)混合を想定し、平成24年度以降は病床数が減少する。(病床数：30床⇒24床、60床⇒44床、150床⇒118床)

なお、30床の場合は平成24年度以降24床に減少するため「医療機関併設型小規模介護老人保健施設」に転換されると仮定する。

## ② 費用部門

給与費については、施設形態が変更しても実際に雇用している職員の給与単価を引き下げることが困難であることから、転換後も転換前（介護療養型医療施設）の職種別給与単価を使用して算出した。また、職員の数も、現在、基準より多く配置されていることを勘案し、転換後も同程度に多く配置されると見込んで算出した。

その他の費用についても、施設に対する個別ヒアリングなどを参考に、実情にあった考えに基づき算出した。

## (工) 過去の借入金について

平成12年に借入を行ったと設定し、損益、キャッシュフローを算定した。

借入金額は「介護事業経営実態調査」における長期支払利息から推計し、借入先として福祉医療機構から7割、市中銀行から3割と設定した。

## 3. シミュレーション結果

### (ア) 収支に関するシミュレーション

前述条件等のもとに行った収支シミュレーション結果を別紙に示す。

#### 別紙1. 「シミュレーション結果（単独型・併設型）」

各転換モデル別、過去(平成12年)の借入金の有無別に、0年目、1~5年目、6年目、10年目の収支を示す。

#### 別紙2. 「シミュレーション結果グラフ」

各転換モデル別、過去(平成12年)の借入金・5年目の改修（以下（イ））の有無別に、0年目から10年目、19年目までの収支を示す。

### (イ) 5年目の改修費用（追加の借入金）の推計

1床当たり居室面積が8.0㎡となる年の前年（5年目）に改修をおこなうと仮定して、改修等にかかる最大金額を推計した。

改修にあたっては、まず改修前（4年目）までの累積収支を全て改修費用に充当し、さらにその後の累積収支が赤字にならない範囲で借入による資金調達を行うこととした。借入する場合は、5年目に追加借入（福祉医療機構から7割、市中銀行から3割）を行うものとした。

その結果、改修にかかる最大費用額及びその際の借入金額は、下記のとおりと推計された。

単独	経過型療養経由 <sup>※1</sup>		老健に転換 <sup>※1</sup>	
	改修費等	うち追加借入金	改修費等	うち追加借入金
30 床	— <sup>※2</sup>	— <sup>※2</sup>	1.8 千万円	— <sup>※3</sup>
60 床	4.1 千万円	— <sup>※3</sup>	15.0 千万円	5.2 千万円
150 床	52.0 千万円	14.2 千万円	19.0 千万円	— <sup>※3</sup>

併設	経過型療養経由 <sup>※1</sup>		老健に転換 <sup>※1</sup>	
	改修費等	うち追加借入金	改修費等	うち追加借入金
30 床	14.0 千万円	11.7 千万円	14.0 千万円	11.8 千万円
60 床	11.0 千万円	3.5 千万円	15.0 千万円	5.2 千万円
150 床 <sup>※4</sup>				

※1：平成23年度末まで1床当たりの居室面積は6.4㎡。平成24年度以降は8.0㎡。

※2：30床単独型（経過型療養経由）においては、転換前の累積収支が赤字であるため、改修・借入は不可能。

※3：30床単独型（老健に転換）、60床単独型（経過型療養経由）、150床（老健に転換）については、4年目までの累積収支を全額使いきる前提では、その後のキャッシュフローで過去の借入と追加借入の両方の返済を続けられない年度が発生するため、追加借入をなしとした。

※4：150床においては単独型と併設型で人員配置、収支状況が同じになるため、単独型のみの表記とした。

#### 4. 考察

##### (ア) シミュレーションの前提

今回のシミュレーションは、一律の予測が困難な以下の条件は考慮していない。実際の検討にあたっては、個々の施設にあわせてこれらの条件を加味する必要がある。

- ① 新たな資産の購入（医療用器械設備、病棟等）によるキャッシュフローの減少、減価償却費の発生
- ② 法人税等の支払によるキャッシュフローの減少
- ③ 施設転換時の職員の退職金
- ④ 補助金の有無および金額
- ⑤ 転換する病棟以外の施設の収支
- ⑥ その他社会経済的な動向（介護報酬等制度の変更、金利、賃金水準、等）

##### (イ) シミュレーション結果の変動要因

今回のシミュレーションの結果から示された主な収支の変動要因は以下のとおりである。それぞれの条件により、損益やキャッシュフローが影響を受けるため、重要な検討ポイントとなる。

##### ① 人員配置

本シミュレーションでは、老健転換前後を通して利用者の要介護度は急激には変化しない前提であるが、人員配置は現行の老健配置基準に基づいて加配率を加味したものとなっている。そのため、個々の施設における利用者のケアの実情にあわせて、必要な人員配置を検討する必要がある。

また、経営に大きな影響を与えるのは、給与単価が高額である医師の配置である。このため、小規模の介護老人保健施設では常勤医師の最低配置人数により人件費負担が大きくなるが、医療機関を併設している場合には、医療機関併設型小規模老健のように医師を他施設と共有することにより人件費を圧縮できる場合がある。

##### ② 給与費

「介護事業経営実態調査」において、介護老人保健施設と介護療養型医療施設における医師、その他の職員の給与単価の間に格差が見られる（例えば、医師の給与は、老健よりも療養の方が高く、介護職員の給与は、療養よりも老健の方が高い）。本シミュレーションでは、全ての職員について転換前後で同一の単価（介護療養型医療施設）を使用しているが、転換後の各職種に求められる働きの変化に応じて、どのような給与水準が保障されるべきかは各施設で検討の余地がある。

### ③借入金

介護老人保健施設への転換により、損益的には黒字の場合でも収益規模が縮小することが考えられる。その場合、借入金の有無および金額は、今後のキャッシュフローを検討する上で非常に重要である。本シミュレーションでは、既存借入金的前提として、平成12年に市中銀行と福祉医療機構からの借入の仮定を置いているが、特に経過期間が終了した段階（5年目終了時点）で借入残高がある場合は、資金調達上も厳しい状況が想定される。過去の借入金残高、完済時期が、今後の資金計画上の制約となる場合があることに留意すべきである。

### ④その他の費用

その他費用（委託費、福利厚生費、光熱費等）は収益金額の約4分の1に相当し、その中には職員数や利用者数規模の縮小にともない縮減される費用と、病床数が減少した場合でも費用を縮小することが難しい固定費としての費用が含まれている。委託先の見直しなども含め、固定費を含めたその他の費用の見直し、圧縮が損益改善のために重要となる。

以上

(別紙1)

◆◆シミュレーション結果(単独型)◆◆

病床数	経由	借入金の有無等	0年目(6.4㎡/床)	1年目～5年目(6.4㎡/床)	6年目(8.0㎡/床)	10年目(8.0㎡/床)
			年間収支	年間収支 (1年目)→(5年目)	年間収支 (累積収支)	年間収支 (累積収支)
30床 (～5年目) ↓ 24床 (6年目～)	経過型療養	無し	約▲90万円	約▲610万円→約▲520万円	約440万円 (約▲2460万円)	約440万円 (約▲720万円)
		有り(1億円)	約▲800万円	約▲1330万円→約▲1230万円	約▲280万円 (約▲7470万円)	約▲10万円 (約▲8040万円)
	老健に転換	無し	約▲90万円	約1370万円～約1480万円	約440万円 (約7470万円)	約440万円 (約9220万円)
		有り(1億円)	約▲800万円	約650万円→約760万円	約▲280万円 (約2470万円)	約▲10万円 (約1900万円)
60床 (～5年目) ↓ 44床 (6年目～)	経過型療養	無し	約2020万円	約2700万円→約2840万円	約1580万円 (約1億7490万円)	約1580万円 (約2億3830万円)
		有り(2.5億円)	約230万円	約910万円→約1060万円	約▲200万円 (約4990万円)	約480万円 (約5530万円)
	老健に転換	無し	約2020万円	約4110万円→約4290万円	約1580万円 (約2億4640万円)	約1580万円 (約3億980万円)
		有り(2.5億円)	約230万円	約2320万円→約2510万円	約▲200万円 (約1億2140万円)	約480万円 (約1億2690万円)
150床 (～5年目) ↓ 118床 (6年目～)	経過型療養	無し	約1億3950万円	約1億3460万円→約1億3700万円	約5130万円 (約8億7040万円)	約5130万円 (約10億7560万円)
		有り(8.5億円)	約7880万円	約7380万円→約7630万円	約▲940万円 (約4億4520万円)	約1360万円 (約4億5360万円)
	老健に転換	無し	約1億3950万円	約8730万円→約9060万円	約5130万円 (約6億3630万円)	約5130万円 (約8億4150万円)
		有り(8.5億円)	約7880万円	約2660万円→約2990万円	約▲940万円 (約2億1120万円)	約1360万円 (約2億1960万円)

(注) このシミュレーションは、種々の前提を置いた上での基本的収支計算の例示であり、個別医療施設の現実の収支計算を予測したものではない。

◆◆シミュレーション結果（併設型）◆◆

病床数	経由	借入金の有無等	0年目(6.4㎡/床)	1年目～5年目(6.4㎡/床)	6年目(8.0㎡/床)	10年目(8.0㎡/床)
			年間収支	年間収支 (1年目)→(5年目)	年間収支 (累積収支)	年間収支 (累積収支)
30床 (~5年目) ↓ 24床 (6年目~)	経過型療養	無し	約200万円	約1400万円→約1490万円	約1680万円 (約9110万円)	約1680万円 (約1億5820万円)
		有り(1億円)	約▲510万円	約680万円→約770万円	約960万円 (約4110万円)	約1230万円 (約8500万円)
	老健に転換	無し	約200万円	約1360万円→約1470万円	約1680万円 (約8990万円)	約1680万円 (約1億5700万円)
		有り(1億円)	約▲510万円	約650万円→約760万円	約960万円 (約3990万円)	約1230万円 (約8380万円)
60床 (~5年目) ↓ 44床 (6年目~)	経過型療養	無し	約2020万円	約3560万円→約3700万円	約1580万円 (約2億1790万円)	約1580万円 (約2億8130万円)
		有り(2.5億円)	約230万円	約1770万円→約1920万円	約▲200万円 (約9290万円)	約480万円 (約9840万円)
	老健に転換	無し	約2020万円	約4110万円→約4290万円	約1580万円 (約2億4640万円)	約1580万円 (約3億980万円)
		有り(2.5億円)	約230万円	約2320万円→約2510万円	約▲200万円 (約1億2140万円)	約480万円 (約1億2690万円)
150床 (~5年目) ↓ 118床 (6年目~)	経過型療養	無し	約1億3950万円	約1億3460万円→約1億3700万円	約5130万円 (約8億7040万円)	約5130万円 (約10億7560万円)
		有り(8.5億円)	約7880万円	約7380万円→約7630万円	約▲940万円 (約4億4520万円)	約1360万円 (約4億5360万円)
	老健に転換	無し	約1億3950万円	約8730万円→約9060万円	約5130万円 (約6億3630万円)	約5130万円 (約8億4150万円)
		有り(8.5億円)	約7880万円	約2660万円→約2990万円	約▲940万円 (約2億1120万円)	約1360万円 (約2億1960万円)

(注) このシミュレーションは、種々の前提を置いた上での基本的収支計算の例示であり、個別医療施設の現実の収支計算を予測したものではない。

(別紙 2)

## ◆◆シミュレーション結果グラフ◆◆

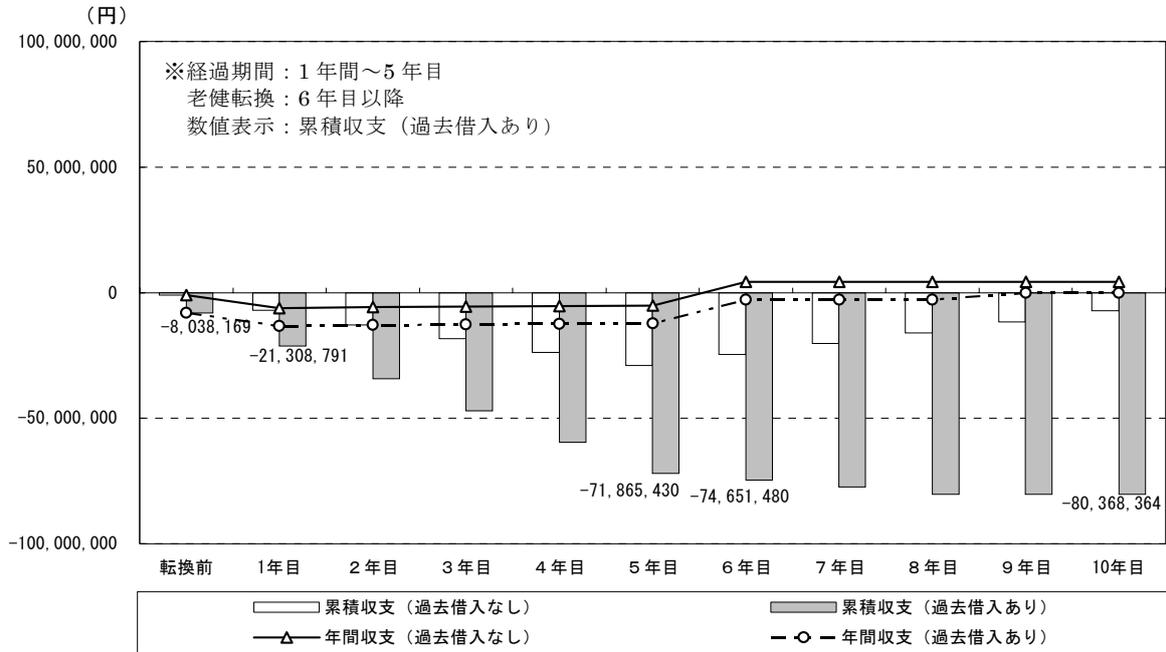
<b>【30 床単独・経過型療養経由】</b> .....	1
(1) 過去借入の有無別収支	
(2) 5 年目改修の有無別収支	
<b>【30 床単独・老健に転換】</b> .....	2
(1) 過去借入の有無別収支	
(2) 5 年目改修の有無別収支	
<b>【30 床併設・経過型療養経由】(医療機関併設型小規模老健)</b> .....	3
(1) 過去借入の有無別収支	
(2) 5 年目改修の有無別収支	
<b>【30 床併設・老健に転換】(医療機関併設型小規模老健)</b> .....	4
(1) 過去借入の有無別収支	
(2) 5 年目改修の有無別収支	
<b>【60 床単独・経過型療養経由】</b> .....	5
(1) 過去借入の有無別収支	
(2) 5 年目改修の有無別収支	
<b>【60 床単独・老健に転換】</b> .....	6
(1) 過去借入の有無別収支	
(2) 5 年目改修の有無別収支	
<b>【60 床併設・経過型療養経由】</b> .....	7
(1) 過去借入の有無別収支	
(2) 5 年目改修の有無別収支	
<b>【60 床併設・老健に転換】</b> .....	8
(1) 過去借入の有無別収支	
(2) 5 年目改修の有無別収支	
<b>【150 床・経過型療養経由】</b> .....	9
(1) 過去借入の有無別収支	
(2) 5 年目改修の有無別収支	
<b>【150 床・老健に転換】</b> .....	10
(1) 過去借入の有無別収支	
(2) 5 年目改修の有無別収支	

(注 1) 全てのケースにおいて、平成 23 年度末まで、一床あたりの居室面積は 6.4 m<sup>2</sup>

(注 2) このシミュレーションは、種々の前提を置いた上での基本的収支計算の例示であり、個別医療施設の現実の収支計算を予測したものではない。

## 【30床単独・経過型療養経由】

### (1) 過去借入の有無別収支

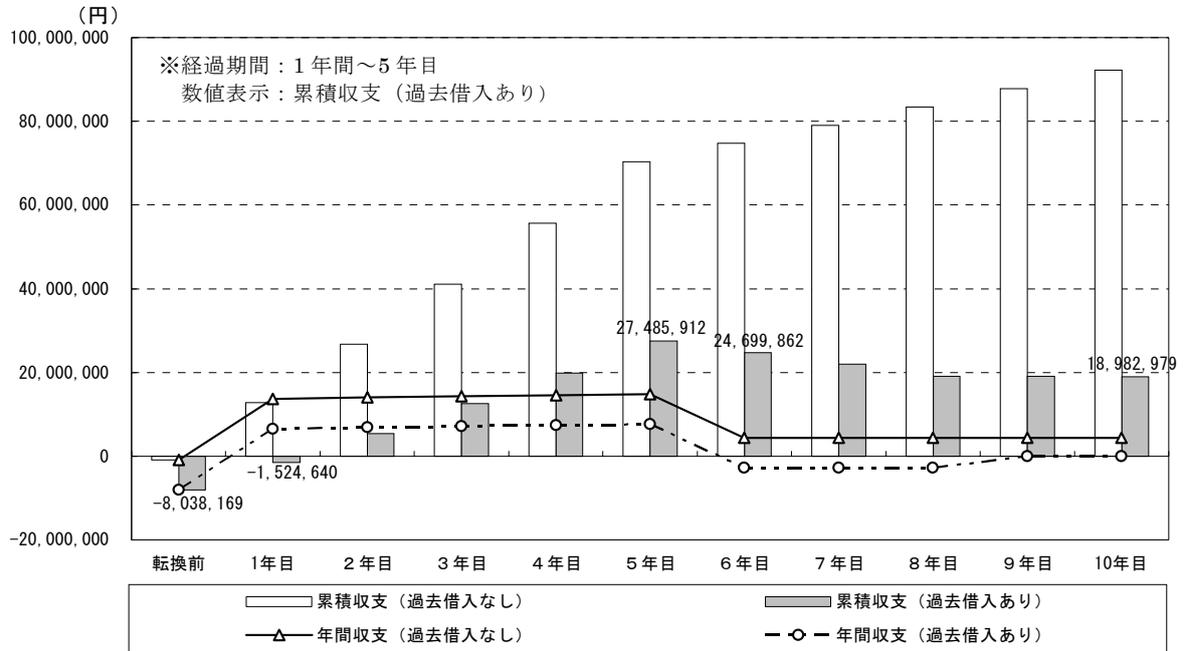


### (2) 5年目改修の有無別収支

30床単独・経過型療養経由の場合は、経過期間、転換後も累積収支が赤字であることから、追加の借入は行わない。

## 【30床単独・老健に転換】

### (1) 過去借入の有無別収支



### (2) 5年目改修の有無別収支

